

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

12306

放課後児童健全育成事業（若竹学級）

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	1	安心して子供を生み育てることのできる環境の整備
施策	1	安心して子供を生み育てることのできる環境の整備
取組方針	2	子供が健やかに育つことのできる環境づくり

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		社会教育費	
	目		放課後児童健全育成費	
	大事業		放課後児童健全育成事業	
中事業		放課後児童健全育成事業（若竹学級）		

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	無し	～	無し	
事業実施の根拠法令	和歌山市放課後児童健全育成事業の実施に関する条		関連課	
			担当課・担当課長・Tel	青少年課 楠山 耕司 435-1235

1 事業内容

	（「誰・何」をどういう状態にするための事業か）		全体事業概要		
事業目的	保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、教室等を利用して、適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る。		放課後児童の健全育成を行う。		
事業内容	平成29年度 小学校の教室等を利用し、支援員等を配置し、保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、遊び及び生活の場を提供している。	平成30年度 小学校の教室等を利用し、支援員等を配置し、保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、遊び及び生活の場を提供している。	平成31年度 小学校の教室等を利用し、支援員等を配置し、保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、遊び及び生活の場を提供している。	令和02年度 小学校の教室等を利用し、支援員等を配置し、保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、遊び及び生活の場を提供している。	令和03年度

2 事業コスト

事業費等（千円）	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	78,884	60,481	56,427	60,660	124,205	56,095	512,749	0	0	0
伸び率（%）	△60.2%	△57.1%	△28.5%	0.3%	120.1%	△7.5%	312.8%	△100%	△100%	0%
人件費	正規職員	33,420	33,420	33,487	33,487	36,727	35,116	36,727	0	0
	正規職員以外	366,265	338,435	417,089	417,089	413,204	413,204	413,204	0	0
	小計	399,685	371,855	450,576	450,576	449,931	448,320	449,931	0	0
国庫支出金	85,212	89,435	107,553	89,456	147,520	145,202	113,009	0	0	0
県支出金	84,492	90,182	106,806	89,456	120,411	100,955	113,009	0	0	0
市債	0	0	0	0	9,800	4,900	0	0	0	0
その他	108,966	97,185	124,348	104,442	130,222	108,913	134,507	0	0	0
一般財源（税等）	△199,786	△216,321	△282,280	△222,694	△283,748	△303,875	152,224	0	0	0
所要人数 （人）	正規職員	4.19	4.19	4.19	4.19	4.56	4.36	4.56	0.00	0.00
	正規職員以外	161.35	149.09	175.69	175.69	181.15	181.15	181.15	0.00	0.00
主な予算内訳	平成31年度は専用施設の建設で事業費増 56,663千円									

3 目標及び実績

	指標名	単位		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
活動指標	若竹学級開級数	学級	目標値	89	89	95	97	
			実績値	85	90	93		
			達成度(%)	95.5%	100%	97.9%	%	%
成果指標	若竹学級入級者数	人	目標値	2870	3200	3400	3600	
			実績値	3188	3380	3644		
			達成度(%)	111.1%	105%	107%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	若竹学級は、学級数を増やすなどの量的拡充を最優先に整備してきた。しかし、これ以上の量的拡充は教室の確保や指導員の確保の上で限界である。
見直し・改善内容	若竹学級の指導員の安定的な人材確保と、指導員の質の向上を図るため、令和2年4月から若竹学級の運営を民間委託する。